

要領解説体育編 第3学年及び第4学年の内容 Eゲーム(2)思考力、判断力、表現力等の中に記載がある「規則を工夫すること」や「ゲームの型に応じた簡単な作戦を選ぶこと」の内容に着目し、授業を展開することとした。特に規則を工夫することでは、児童の実態に応じて規則を簡単なものにするか、難しいものにするか、児童自身が選択しゲームを実施することで、ソフトバレーボールを得意としている児童、苦手としている児童が同じコート内で一緒に楽しむことができるようにしたい。そして、スモールステップ化された規則により成功体験を得ることで、ソフトバレーボールを苦手としている児童の意欲を高めていきたい。

単元の終わりには、南小ラリーコンテストを実施し、運動する楽しさや喜びを味わえるようにしたい。

単元を通して、デジタル学習カードを活用して児童が本単元の見通しをもって授業に取り組めるようにしたい。デジタル学習カードは、指導計画や授業の流れ、技能のコツ等をタブレットPCに記録するポートフォリオとして作成した。このカードを使用することで児童が主体的に学習を振り返ったり、互いに伝え合う場面で活用し、技能やチームプレーを向上させたりするきっかけにしたい。また、毎時間振り返りを行う。その振り返りの内容から、次時の課題を設定するというサイクルを継続して取り組む。このような活動を通して、児童の技能向上や円滑な授業づくりに繋がたい。

「見方・考え方」を働かせる学習過程を工夫することにより、体育科で育成を目指す資質・能力がより豊かになり、体育科の目標である、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かスポーツライフを実現するための資質・能力」の育成につなげることを目指す。

児童の実態から勝敗を受け入れたり、適切ではない言動をとったりする様子が見られたため、試合前後のあいさつやチームで円陣を組むなどチームや相手の仲間と楽しく授業に取り組み、児童同士がお互いを尊重し合い、安心して授業に取り組める雰囲気をつくりたい。

本時において、はじめの段階では、まず主運動につながる運動として、前時に行ったラリーゲームを行う。この練習では、前時に学習した内容をおさえつつ、チーム内で声掛けをしながらパスを繋ぐことでラリーを続ける意識を高めていきたい。次に、前時までの授業の振り返りを通して、課題を見つけ、めあてを提示し、考える視点を焦点化させて学習を進めていく。

なかの段階では、学習指導要領解説体育編 第3学年及び第4学年の内容 Eゲーム(2)思考力、判断力、表現力等の中に記載がある「規則を工夫すること」に重点を置き、ゲームを通して思考力、判断力を高められる授業を進める。規則を工夫するにあたっては、前時までに行われた授業を基に「ボールに関する規則」、「ラリーが続くための規則」と選択できる規則を2つ設定した。そして、話し合いを通してチームで規則を選択したり、個人で規則を選択したりさせる。そうすることで、児童の技能習熟における差異に関係なく、ゲームに取り組ませるようにしたい。

チームや個人に適した規則を選択し、ゲームに参加することで、ソフトバレーボールの楽しさや喜びに触れたり、課題解決に向けて友達と話したりできる視点を作りたい。ゲーム①終了後、児童が規則を再選択する機会を設け、ラリーが続くように各チームで改善点を話し合い、ゲーム②に取り組むことで全員が楽しむことができるようにしたい。

まとめの段階では、ゲームを通して学んだことやチームで話し合った内容を中心に振り返りシートに記入することで、本時の学びを確認するとともに次時の見通しをもたせる。